



H.Suga

THE YASUDA KINEN

第75回 農林水産省賞典 安田記念 (GI)

1着 本賞 180,000,000円
付加賞 3,822,000円

2着 72,000,000円
1,092,000円

3着 45,000,000円
546,000円

4着 27,000,000円

5着 18,000,000円

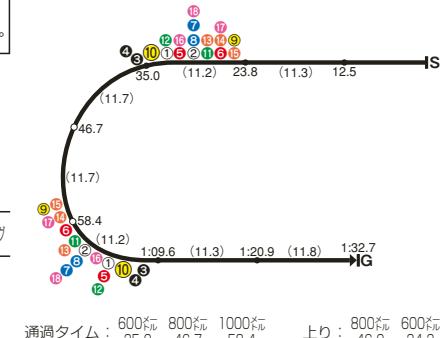


レース映像は
コチラでご覧
いただけます。

3歳以上、除未出走馬および未勝利馬
負担重量 3歳54kg、4歳以上58kg、牝馬2kg減

2025.6.8 東京 番・良 芝1600m (国際) 指定

順位	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	タイム	コナー	上り	馬体重	単勝	オッズ	調教師	レーティング
1	⑩	ジャンタルマンタル	牡4	58	川田将雅	1:32.7	3-3	34.2	498(-5)	4.3②	高野友和(栗東)	120	
2	⑦	ガイアフォース	牡6	58	吉谷誠之助	1⑤	8-8	33.9	494(+12)	32.2⑨	杉山晴紀(栗東)	117	
3	⑬	ソウルラッシュ	牡7	58	浜中 俊	クビ	12-12	33.9	512(- -)	3.3①	池江泰寿(栗東)	116	
4	⑮	ブレイディヴェーグ	牝5	56	戸崎圭太	クビ	8-8	34.1	470(- -)	9.4④	宮田敬介(美浦)	111	
5	④	ウインマーベル	牡6	58	松山弘平	クビ	1-2	34.7	484(- -)	38.3⑪	深山雅史(美浦)	114	
6	⑨	シャンパンカラーラ	牡5	58	内田博幸	%	17-17	33.6	514(+2)	13.0⑩	田中 刚(美浦)	113	
7	⑧	エコロワルツ	牡4	58	M.デムーロ	クビ	8-8	34.2	492(±0)	18.8⑦	牧浦充徳(栗東)	113	
8	⑪	サクラトゥジュール	駄8	58	D.レーン	ハナ	12-12	34.0	508(-8)	72.1⑩	堀 宣行(美浦)	113	
9	⑭	ウォーターリヒト	牡4	58	菅原明良	クビ	14-15	33.9	466(-2)	13.0⑤	石橋 守(栗東)	112	
10	③	マッドクール	牡6	58	坂井瑠星	ハナ	2-1	34.9	544(+4)	35.4⑩	池添 学(栗東)	112	
11	⑯	ジュンブロッサム	牡6	58	武 豊	クビ	14-15	34.0	474(-8)	13.7⑥	友道康夫(栗東)	111	
12	①	シックスペンス	牡4	58	C.ルメール	クビ	4-4	34.7	504(+4)	4.4③	国枝 栄(美浦)	111	
13	⑫	ロングラン	駄7	58	岩田康誠	2	4-4	35.1	476(-2)	87.6⑨	和田勇介(美浦)	107	
14	②	ダディーズビッド	牡7	58	池添謙一	%	8-8	34.8	516(-2)	235.2⑩	千田輝彦(栗東)	106	
15	⑤	レッドモーンレーヴ	牡6	58	M.ディー	クビ	6-4	35.2	524(±0)	59.0⑨	蛭名正義(美浦)	105	
16	⑥	グラティアス	牡7	58	横山和生	1	14-14	34.8	490(-4)	418.2⑦	安田翔伍(栗東)	103	
17	⑯	トロヴァトーレ	牡4	58	横山武史	ハナ	6-7	35.3	498(-10)	29.6⑧	鹿戸雄一(美浦)	103	
18	⑯	ホウオウリアリティ	牡7	58	丹内祐次	クビ	17-17	34.6	474(-10)	430.1⑩	井上智史(栗東)	103	



アラカルト

- 川田将雅騎手はダノンキングリーで制した21年に続く安田記念4勝目で単独トップの勝利数。JRA重賞は本年4勝目、通算146勝目
- 高野友和調教師は安田記念初勝利。JRA重賞は本年初勝利、通算29勝目
- Palace Malice産駒はJRA重賞通算5勝目
- 4歳馬の勝利は22年ソングラインに続く通算15回目

単勝⑩430円(2人) 複勝⑩180円(2人) ⑦540円(8人) ⑬140円(1人) 枝連④-⑥3,250円(13人)

馬連⑦-⑩9,560円(30人) ワイド⑦-⑩2,200円(26人) ⑩-⑬380円(1人) ⑦-⑩1,730円(19人)

馬単⑩-⑦13,540円(47人) 3連複⑦-⑩-⑬10,250円(32人) 3連単⑩-⑦-⑩65,970円(209人)

5重勝⑤⑯⑩⑯⑩758,620円(724票) 対象競走: 東京9R／阪神10R／東京10R／阪神11R／東京11R

ジャンタルマンタル Jantar Mantar

牡 黒鹿毛 2021.3.21生
北海道千歳市 社台ファーム生産
馬主・有社台レースホース 栗東・高野友和厩舎
馬名意味・インドにある天体観測施設

インディアマントゥアナUSA系 F9-e		
Palace Malice 鹿毛 2010	Curlin 栗毛 2004	Smart Strike
		Sheriff's Deputy
India Mantuana 黒鹿毛 2014	Palace Rumor 鹿毛 2003	Royal Anthem
		Whisperifyoudare
Wilburn 鹿毛 2008		Bernardini
		Moonlight Sonata
	Speed Wagon 青毛 2003	Tomorrows Cat
		Rajica

5代までのインブリード : Mr.Prospector S 4×M5

INTERVIEW

上水司 場長(山元トレーニングセンター)

腹を据えてこのレース1本に臨みました

昨秋が消化不良でしたので、腹を据えてこのレース1本に絞って臨みました。獣医師、装蹄師を含むスタッフ全員で知恵を絞り、高野調教師とも相談しながらうまく引き継ぎできました。中間はすこぶる順調でしたので、良いレースになると思っていました。スタッフ全員と喜びを分かち合えたことが嬉しかったです。川田騎手のガツッポーズもしごれました。



J.Fukuda

昨年の高松宮記念の覇者マッジドクルが軽快に飛び出して先手を主張。3コーナーではこれにウインマーベルが並びかけ、2頭が雁行してレースを引つ張る。ジャンタルマンタルの川田将雅騎手は直後の外で折り合いに専念。大阪杯(1番人気7着)からの巻き返し期待され、3番人気の支持を集めたソウルラッシュは中団馬群の後方寄りにつけ、末脚勝負に構えた。一方、序盤のダッシュが鈍かつたソウルラッシュは中団馬群の後方寄りにつけ、末脚勝負に構えた。

迎えた直線、火花を散らす前の2頭はかっていた川田騎手は、坂の上りから本格的にスパート。鋭く反応したジャンタルマンタルが残り200m地点で先頭に立ち、リードを開く。失速した先行勢にかわり、ソウルラッシュとガイヤフォース、外からはブレイディヴェーグも追い込んだものの、最後までしつかり伸びたジャンタルマンタルが横一線の2着争いを戸目に悠々とゴールを駆け抜けた。

2歳時には無傷の3連勝を飾つて朝日杯フューチュリティSに優勝、昨春のNHKマイルCも制し、世代のマイル王に君臨した本馬だが、暮れの香港マイルでは前哨戦を使えなかつた認算や落鉄などのアクシデントも響き、苦い大敗(13着)を喫した。それでも態勢を立て直され、照準を1本に定めて臨んだ大舞台で本領を発揮。G13勝目をマークし、世代のマイル王から日本を代表するトップマイラーへ躍進を遂げた。

父パレスマリスUSA

アメリカ産 北米19戦7勝(ペルモントSG1、メトロボリタンHGI、ガルフストリームパークHG2、ニューオーリンズHG2、ジムダンディ SG2、ウエストチエスター SG3、ジョッキークラブゴールドC12着)、16年から米 日で供用
〔代表産駒〕**ジャンタルマンタル**(本馬)、**ストラクターUSA**(BCジュベナイルターフ・米G1、ビルグリムS・米G3)、**ミスターモノモイ** Mr.Monomoy(リズンスターS・米G2)、**ライクザキング** Like the King(ジェフルビーS・米G3)、**フライオンエンジェル** Fly On Angel(チャールズタウンオーラス・米G3)、**ノーブルロジャーUSA**(シンザン記念GIII)

母インディアマントゥアナUSA

北米27戦6勝(レッドカーペットH・米G3、ジンジャーブリューS・米L2着、アリワS・加3着、ウェイトアワイルS・米3着)、20年輸入

ジャンタルマンタル

本馬(21 牝父Palace Malice)持込 中央7戦5勝(安田記念G1、NHKマイルC G1、朝日杯フューチュリティS G1、デイリー杯2歳S G1、共同通信杯GII 2着、皐月賞G1 3着)、香1戦0勝 最優秀2歳牡馬 獲得賞金504,350,000円
ウンターシャ(23 牝父パリオUSA)廻
(24 牝父イスラボニータ)
(25 牝父パレスマリスUSA)
※20、22(流産)

祖母スピードワゴン Speed Wagon

アメリカ産 北米5勝(MTAスタリオンオーラッシュS、レミントンパークBCオースク・L2着、ミネソタディスタフスプリントチャンピオンシップS 2着、ノーザンライツデビュータントS 3着)

ペナントフィーヴァー Pennant Fever(11 翼父Grand Slam)北米5勝 アブライドルアンドアプレイヤー Abridleandaprayer(13 翼父Songandaprayer)北米3勝

インディアマントゥアナUSA(14 前出)

曾祖母ラジカ Rajica

アメリカ産 北米5勝(エヴァーアグリーンS、クイーンシティオーラス・L2着) ラナウェイバビー Runaway Babbie(95 牝父Runaway Groom)北米1勝、ラナウェイジュリー Runaway Julie(ローズデバルトロメモリアルS・米、ボービーリックカーメモリアルH・米)、モンフォートレーン Montfort Lane(シンシナチアンS・米2着)の母

スピードワゴン Speed Wagon(03 前出)

態勢を立て直されマイルの頂点へ

高松宮記念のサトノレーヴ、ヴィクトリアマイルのアスコリピーチエーノをはじめ、今春の土馬G1では海外遠征からの帰国初戦となつた馬の好走が目立つた。上半期のマイル王決定戦・安田記念も「帰国初戦」の馬たちが1~5着までを独占。とはいゝ4月のドバイインターフで香港の雄口マンチックウォリアーを破り、1番人気の支持を集め5着までを独占。とはいゝ4月のドバイインターフで香港の雄口マンチックウォリアーを破り、1番人気の支持を集め5着までを独占。とはいゝ4歳馬、ジャンタルマンタルが立ちた7歳の古豪ソウルラッシュは3着に敗れ、その前には対抗候補と目されたいた4歳馬、ジャンタルマンタルが立ちはだかつた。

昨年の高松宮記念の覇者マッジドクルが軽快に飛び出して先手を主張。3コーナーではこれにウインマーベルが並びかけ、2頭が雁行してレースを引つ張る。ジャンタルマンタルの川田将雅騎手は直後の外で折り合いに専念。大阪杯(1番人気7着)からの巻き返し期待され、3番人気の支持を集めたソウルラッシュは中団馬群の後方寄りにつけ、末脚勝負に構えた。一方、序盤のダッシュが鈍かつたソウルラッシュは中団馬群の後方寄りにつけ、末脚勝負に構えた。

迎えた直線、火花を散らす前の2頭はかっていた川田騎手は、坂の上りから本格的にスパート。鋭く反応したジャンタルマンタルが残り200m地点で先頭に立ち、リードを開く。失速した先行勢にかわり、ソウルラッシュとガイヤフォース、外からはブレイディヴェーグも追い込んだものの、最後までしつかり伸びたジャンタルマンタルが横一線の2着争いを戸目に悠々とゴールを駆け抜けた。

2歳時には無傷の3連勝を飾つて朝日杯フューチュリティSに優勝、昨春のNHKマイルCも制し、世代のマイル王に君臨した本馬だが、暮れの香港マイルでは前哨戦を使えなかつた認算や落鉄などのアクシデントも響き、苦い大敗(13着)を喫した。それでも態勢を立て直され、照準を1本に定めて臨んだ大舞台で本領を発揮。G13勝目をマークし、世代のマイル王から日本を代表するトップマイラーへ躍進を遂げた。